話題

建築現場に潜む眼光

齋藤　純

陽が高くなり空気が温んでくると，街のあちこちで通行人の進路を悠然と遮り，あわよくば一日の糧をねだるために愛嬌をふりまく輩が出没する。特に日本で流浪する彼らは人慣れしていることが多い。かくいう筆者も思わず足を止め，その柔らかな身体を存分に撫でまわす羽目になってしまう。彼らも満更でもない様子。忙しい朝の通勤時間に彼らに出くわすことは極めて危険なのである。

我々が街中で見かける「イエネコ」は，野生の「ヤマネコ」を家畜化したものである。Carlos A. Driscollら*によれば，世界中の979匹の「イエネコ」のDNAから彼らの祖先を調査した結果，「肥沃な三日月地帯」に住んでいた少なくとも5匹の獰猛な「ヤマネコ」にたどり着く。おそらく「肥沃な三日月地帯」の農村で有能なネズミの捕食者として活躍していたと想像される。

島国バハレーンの「イエネコ」たちは，開発が進む都市部の建築現場近くでしばしば遭遇することができる。熱い日差しを避けるかのように資材置き場やトラックの陰でひっそりとたたずむ。日本での習慣が染みついている筆者が近付くと警戒心剥き出しで険しい眼光を向けてくる。バハレーンの彼らは，「ヤマネコ」の血が濃いのか，なかなか愛嬌をふりまいてくれない。マナーマ市内で他の「イエネコ」たちにもコンタクトを図ったがことごとく失敗に終わる。

野生の「ヤマネコ」に近いバハレーンの「イエネコ」に散々嫌われたことで，野生生物と人間が共生生活に至るまでの，両者の並々ならぬ長年の努力を思い知らされることになった。

マナーマ市内建築現場の「イエネコ」

＊　Driscoll et al.［2007］. “The Near Eastern Origin of Cat Domestication,” *Science*, 27 July 317, pp.519-523.

（さいとう　じゅん／地域研究センター）